

平成29年度豊橋市病院事業決算の概況

収支状況については、看護師をはじめとする医療スタッフの確保・定着のほか、退院・転院支援体制の充実による継続的な地域連携の取り組みや外来治療センターの増床などにより、医業収益が3.4%の増となりましたが、人員増及び給与改定による給与費の増加や薬品費の増加により、医業費用が6.4%の増となりました。この結果、収益的収支（税抜き）は2億4,231万円の黒字、経常収支についても8年連続となる黒字となりました。なお、当年度未処分利益剰余金のうち、2億4,200万円を減債積立金に積み立て、資本金に15億1,700万円を組み入れた後の繰越利益剰余金は10億2,380万円となりました。

主な事業としては、医療の高度化・複雑化に対応するため、新たなICTを活用した病院総合情報システムを構築したほか、東三河の地域医療を支える中核病院として、より一層の診療機能・診療体制の充実に向けて、内視鏡手術の増加や最新の医療技術に対応するため、平成31年度の開設を目指し、手術センター棟の整備に係る基本設計・実施設計を行うとともに、整備工事に着手しました。

さらに、質の高い医療を効率的に提供するため、(公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価(3rdG)を受審し、4度目の認定を受けました。加えて、経営の健全性が確保され、かつ地域医療の確保に重要な役割を果たしていることが総合的に評価され、総務省から「自治体立優良病院総務大臣表彰」を受賞することができました。

